

しのめ

発行 鳥取県立鳥取東高等学校同窓会 東雲会

鳥取県鳥取市立川町5-210 〒680-0061

TEL 0857-22-8495

FAX 0857-22-8497

Eメール torie-h@mailk.torikyo.ed.jp

出版 株式会社 サラト

兵庫県姫路市北条宮の町172 〒670-0948

TEL 079-284-1380

FAX 079-224-7746

題字 柴山抱海氏（特別会員）



平成29年度鳥取県高等学校総合体育大会
湖山池ボートコースにて



鳥取東高等学校同窓会東雲会
会長 常田 享詳（山13）

Sequel

学縁

鳥取東高とオリンピック

山陰の青空の下、爽やかな夏の風が感じられる季節となりましたが、同窓生の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。去る二月、三月に鳥取と大変縁の深い韓国江原道の平昌で開催された冬季オリンピック、パラリンピックにおいて、日本選手団の団長小平奈緒選手が「百花繚乱」と表現したように、それぞれの競技で花開き、国民に大きな感動を与えてくれました。特に女子選手の活躍が目立ち、より一層華やかな大会となりました。メディアを通じ、そこに至るまでの各選手の道のりの厳しさを知るにつけ、限界に挑む勇姿に感動しました。

オリンピックで思い出すのは一九九二年にスペインで開催されたバルセロナオリンピックです。鳥取東高卒業生の山下佐知子選手が女子マラソンに出場し、「四位入賞」という大活躍をしました。山下選手は鳥取東高卒業後、鳥取大学に進み教員免許を取得して、中学教師となるも、その職を投げ打って京セラ陸上部に入部、オリンピック出場を目指して雑草のごとく力を育み、初志を貫徹してバルセロナオリンピックに出場し、栄冠をつかんだのです。その活躍は当時の在校生に多大なる夢と希望を与えてくれました。当時の校長は松田章義先生、私はPTA会長でした。

鳥取東高の関係者が中心となって鳥取市後援会を設立し、私も役員の一人としてバルセロナにシャンシャン傘踊りの傘を持って応援に行きました。メインスタジアムに入ってきた山下選手の勇姿は今も目に焼きついています。帰国して祝勝会やパレード等が一段落した年末に顕彰碑を建立し、今も母校の玄関前で在校生の背中を押してくれています。御影石は芦澤喜武氏（山十二）の寄贈。揮毫は柴山抱海先生です。山下選手はメルボルン大会（一九九六年）バスケットボールの藤田学選手に続いてオリンピックに出場した二入目の卒業生です。「さわやかな風、きらめく光、母なる豊かな大地、すべてを包むふるさと鳥取、私たちの夢ひらく」（女子書道部作品より）



校長
尾室 真郷
(山29)

『光り輝く 生徒を求めて』

鳥取東高同窓会「しののめ」会員の皆様には日頃より温かいご支援をいただき、感謝申し上げます。いよいよ100周年の足音が聞こえはじめ、伝統校の校長という重責をひしひしと感じているところです。東京で、京阪神で、東海で様々な地域での同窓会の集まりに出席するたびに、母校に対する誇りと愛情、そして後輩たちへの期待を同窓会の皆様より強く感じ大変感謝しています。

3年目を迎えた鳥取東高で、多くの感動と喜びを生徒からいただき、感謝する日々の連続です。大好きな東高がもつと光り輝くために、生徒が「社会の何処かを支える人」「一隅を照らす人」になるために、高校時代に何を為すべきか、そして教職員はどう生徒と向き合ったらよいのか、全力で取り組んでいきたいと思っています。

昨年は東高祭で20年ぶりに『シンボル』が復活いたしました。苦労は確かに多くありましたが心に残ったものはそれ以上であり、新たな伝統へと受け継がれ

たらと思っています。生徒と一緒に訪問した東北の被災地ではあまりにも学ぶことが多く、風化させてはならない大震災の記憶を全校生徒と再確認しました。また、授業の予鈴を校歌に変えました。1日9回、1年間で1,800回、3年間で約5,400回も耳にする校歌は一人ひとりの生涯にわたる応援歌として一生の財産になると信じています。

部活動においてもどれほど多くの感動をいただいたのか計り知れません。ボート部・水泳部・卓球部・柔道部・陸上部・書道部・放送部が全国の舞台で活躍する機会が多くあり、心躍ったものです。そんな生徒の活躍の一番の応援団として今年も声援を送り続けていきたいと思います。

最後に昨年の11月、西村和義氏（山脈1回）、元三菱金属株式会社取締役 元中国延安大学客員教授）がお亡くなりになりました。本校理数科が上海研修旅行を実施する際には大変なご尽力をいただき、また東京東雲会を常に支えられ、また最後まで役員をされながら日本の教育の将来を心配され、特に、体験と良い人との出会いが極めて重要であると丁寧に教えていただきました。鳥取東高が大変お世話になりました。私の在職中に生徒へ是非お話ししていただきたかったです。すが、本当に残念で仕方がありません。心よりご冥福をお祈りします。

東京支部

東京東雲会報告

東京東雲会会長
林田英樹（山12）

昨年の東京東雲会の総会・懇親会は、恒例により七月第一週の土曜日にあたる一日の十二時半から、霞が関の法曹会館で開催されました。昭和三十年に発足した東京東雲会の六十年余の歴史の中



で、約二十年にわたり会長をお勤めいただいた鈴木誠会長（山五回）が退任されて名誉会長に就任され、林田英樹（山十二回）が会長に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

東京東雲会は、事務局や財政面も含めて、鈴木会長に文字通り「おんぶにだっこ」状態でしたが、おらかに面倒をみていただき、笑顔のあふれる会として育てていただきました。事務局は、引き続き鈴木・曾我法律事務所におかせていただくなど、今後も名誉会長に特別な応援をお願いすることになります。ですが、良き伝統を維持しながら、できるだけ早く自立した運営ができるようにしていくことが、私の第一の仕事であると考えております。皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

この総会には、深澤義彦鳥取市長（山二十一回）、常田享詳同窓会長（山十三回）、滝波和宏同事務局長（山二十四回）、尾室真郷校長（山二十九回）、岡崎隆司鳥取県東京本部長（山二十八回）、鳥取西高同窓会と八頭高同窓会代表にもご出席いただきました。参加者は、柏葉十九回の上山信一先輩から、山脈六十七回の現役女子大学生まで、幅広い世代から約百人が集まり、盛況でした。

総会では、深澤市長にご講演を、懇親会では、常田同窓会長と尾室校長からご祝辞をいただき、恒例の芸能や福引で楽しい時間をもちました。平成三十年は、七月七日に開催の予定ですので、より多く

の方のご出席をお待ちしております。

また、新たに会報を発行するとともに、「東京東雲会」のホームページを立ち上げましたので、情報交換のために活用されることを期待しております。

東海支部

平成29年度東雲会 東海支部活動報告

東海東雲会会長
中川 澄（山17）



H29・10・29（日）
支部総会案内発
送
H29・11・12（日）
東雲会東海支

部総会懇親会

鳥取東高校長 尾室 真郷氏、東雲会事務局長 滝波 和宏氏を鳥取から来賓としてお迎えして開催致しました。

昨年は今までの最少人数4名の参加でした。

少人数ではありましたが、母校の話題などの話で大いに盛り上がりました。

今年度も、一部会員より日曜日なら参加出来るとの意見があり、また、11月11日の日曜日の開催と致します。1名でも参加者があれば開催致します。

また、今年度は、会報の発行を実現したいと思っています。総会案内と同時に発送したいと考えています。

30年度の情勢はいよいよ大改革

を必要とする時期が迫っていることを予感させます。

この期に及んで増税が必要という声があり聞こえないのが不思議です。

減税は金持ちに有利で、増税こそが格差是正の切り札であることをなぜ気がつかないのか？

減税は選挙対策の甘い罠です。世の中は面白いことが多すぎて、残された時間はドンドン少なくなりますが、やりたいことは段々増えて焦りを感じるこの頃です。

京阪神支部 第67回京阪神東雲会総会・懇親会

副支部長

増田 正(山22)

開催日●平成29年11月18日(土)場所●中之島LOVE CENTRALにて京阪神地区在住の旧制鳥取二中と鳥取東高等学校の同窓会である京阪神東雲会が開催されました。尾室鳥取東高等学校校長他同窓会本部役員の皆様、鳥取関西本部長、東京東雲会会長ら来賓を含めて約80人が集いました。

開催場所は大阪市が現在進めています「川辺に賑わいを」というコンセプト、そのテーマに従って大阪市役所の目の前の堂島川(旧淀川)の中に結婚式場とレストランを作り広いテラスと船着き場を併設施設の上には高速道路が通っており雨は降りません。一度このような場所で開催したいと思いい3年かけて、やっと開催で

きたのです。

京阪神東雲会の特徴は毎年会場が変わる事です。この事が他の同窓会と異なる点です。更にこの場所は淀屋橋のすぐ近くで、淀屋橋と言えは倉吉に淀屋の屋敷がありましたが鳥取と縁のある場所なのです。対岸には市役所と中之島公会堂があります。ついでに言うと大阪市の名誉市民第1号は鳥取出身の日本画家、菅原彦画伯です。その意味では鳥取と大阪も色々と繋がっています。

開催当日は雨が降りどうなるかと心配していましたが、鳥取からの本部役員の皆様、そして鳥取からの応援団も参加です。おいしいイタリア料理と何故かお茶漬、地酒の「強力」、懐かしの歌は鳥取からの応援団がギターを持つての参戦、有志のスピーチ、鳥取〇×クイズ等々時間が過ぎるのを忘れて楽しく過ごす事ができました。終了後は中之島公会堂を背景にして記念撮影。その後、直ぐに船に乗って堂島川をさかのぼり銀橋までのコース、大阪城の見える処を航行して楽しい時間を過ごす事ができました。当日の写真もアップしました。また、今年の総会・懇親会でお会いしましょう。



鳥取市役所東雲会

鳥取市役所

東雲会報告

29年度会長

福田正樹(山27)

市役所東雲会は、市役所並びに市立病院、水道局、東部広域行政管理組合の鳥取東高卒業生約370人で構成しています。事業は、会の目的である会員間の交流のため、29年度は夏季錬成会を8月賀露の農産物直売所「わったいな」で、総会を1月白兔会館で開催しました。深澤市長をはじめ、常田同窓会長、清水副会長、尾室校長、早田病

院長、尾室教育長、4市議会議員の出席をいただき100人を超える会員参加で賑やかに行いました。また、在校生への支援として、クラブ活動への助成と、全国大会への出場者に対する助成を行っており、今年度は例年になく全国大会出場者が多く今後の一層の活躍が期待されるところです。本市は平

平成二十九年度 会務報告

★六月、同窓会報「しのめ」第十三号を発刊しました。

★六月十九日(月)創立九十五周年記念式典が挙行されました。

★七月一日(土)東京東雲会総会に常田享詳会長(山13)、

尾室真郷校長(山29)、滝波和宏事務局長(山24)、十一月十二日(日)

東海東雲会総会に尾室真郷校長(山29)、滝波和宏事務局長(山24)、

十一月十八日(土)京阪神東雲会総会に川口東洋輔副会長(山12)、

尾室真郷校長(山29)、滝波和宏事務局長(山24)の本部役員が参加し交流を深めました。

★八月五日(土)本部同窓会総会が開催され、京阪神総会幹事の増田正氏(山22)、黒川洋子氏(山22)をご来賓にお迎えいたしました。

成30年4月に中核市に移行し北但地域も含めた県東部圏域の中核として新たな一歩を踏み出します。これからの鳥取市の発展を支えるには人材が最も重要であり、鳥取市を愛し誇りに思う優秀な人材が鳥取東高から多く育つことを期待し、今後も引き続き応援していきたいと思っております。

★同窓会の後援事業として始まった鳥取東高の食堂「おせっかい食堂」での「食育フェア」が、平成二十九年度六月二十二日(木)、二十三日(金)を初めとして四回開催され、三百円という安価な値段で多くの生徒、職員に昼食が提供されました。



平成29年度 鳥取東高校同窓会
(東雲会) 役員表
〔任期：平成28年8月～平成30年7月〕

同窓会報「しのめ」第13号の協力金納入の現況

同窓会員の皆様には、多大なご理解とご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。
第13号の協力金納入は次のとおりです。

★会員発送数	20,494冊
★協力金入金件数	1,384件 (前年比434件減)
★実質の協力金入金	2,358,220円 (協力金－振込手数料) (前年比373,940円減)
★必要経費(会報・封筒の印刷、郵送費等)	3,300,000円

★第10号の納入状況は、協力金が必要経費を約100万円下回っていました(赤字)。第11号では約77万円、第12号では約50万円の赤字で、少しずつ減少傾向にありましたが、今回再び増加し約94万円の赤字となりました。創立100周年を控え、会報誌の益々の充実のため、同窓会員の皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。

平成30年度 同窓会(東雲会) 定期総会及び各支部総会の日程について

東京東雲会 平成30年度総会

日 時	平成30年7月7日(土) 12時30分～
会 場	法曹会館 千代田区霞が関1-1-1 TEL 03-3581-2146
会 費	一般会員：5,000円 学生：1,000円

東海東雲会総会ご案内

日 時	平成30年11月11日(日) 12時～14時30分
会 場	名古屋クラウンホテル 名古屋市中区栄1-8-33 TEL 052-211-6633 (地下鉄「伏見駅」徒歩5分)
会 費	男性：7,000円 女性：5,000円 夫婦同伴：10,000円 学生：2,000円 初めての方：3,000円

鳥取東高等学校同窓会東雲会 定期総会・懇親会のご案内

日 時	平成30年8月4日(土) 総会 17:00～ 懇親会 18:00～
会 場	ホテルモナーク鳥取 鳥取市永楽温泉町403 TEL 0857-20-0101
会 費	5,000円

京阪神東雲会総会ご案内

日 時	平成30年11月17日(土) 12:30～15:30 受付 12:00～ 総会 12:30～13:00 懇親会 13:00～15:30
会 場	〒530-0047 大阪中之島LOVE CENTRAL (ラブセントラル) 大阪市北区西天満2-1-18 TEL 06-6362-1000
最寄り駅	梅田から徒歩15分、堂島川沿い
懇親会費	7,000円

出席者

西土井英昭
(山脈20回 鳥取赤十字病院院長)

早田 俊司
(山脈23回 鳥取市立病院院長)

尾室 真郷
(山脈29回 鳥取東高等学校校長)〈司会者〉

滝波 和宏
(山脈24回 鳥取東高等学校同窓会事務局長)

創立100周年(2022年)に向けた特別企画 同窓生による対談

実施日 2018年3月22日(木) 於 鳥取東高 同窓会館 事務局

【対談の流れ】

- (1) 出席者の高校時代の思い出
- (2) 母校の生徒についての印象
- (3) 医学部・医師とは
- (4) 高齢化社会について
- (5) 100周年に向けての提言

【対談…抜粋】(文中敬称略)

尾 室…西土井院長先生、早田院長先生、本日はありがとうございます。母校鳥取東高での思い出、今後の鳥取東高に対するご提言等、ご自由に対談していただければ幸いです。よろしくお願ひします。

西土井…よろしくお願ひします。

早 田…こちらこそ。

尾 室…西土井先生は山脈20回のご卒業(昭和41年入学)、そして早田先生が山脈23回のご卒業(昭和44年入学)ですが、西土井先生の在学当時が東高の生徒数が最大のときだったと思います。

西土井…そうですね、500人は超えていたと思います。

尾 室…調べてみましたが、約600人のときがありました。在校生1,880人、専攻科を入れて1,900人というような時代でした。早田先生の在学時も1,500人を超える規模でした。

(同窓会事務局) 現在の鳥取東高…各学年7クラス 1クラス約40名 生徒総数853名)

尾 室…クラスの数は何人くらいでしたか。

西土井…50名を超えていました。55とか56名ぐらいいたかもしれません。

早 田…僕らのときは50名ぐらいでした。

尾 室…そのころの授業の様子はどうでしたか。

西土井…そうですね、中学校のときからずっとそんな感じで生徒が多い時代でしたから、ぎゅうぎゅう詰めでも別に何とも思いませんでした。人数が多

いのが当たり前でしたから。

早 田…僕も特に多いというような感覚はなかったです。まあこんなものかなって感じてました。

尾 室…そういう時代であっても、学校の教員というものは威厳があり、とても怖い存在だったと思うのですが、何か当時の教員に関する懐かしい思い出があれば語ってください。

西土井…あまり先生が怖かったというイメージは持っていないませんでした。普通の授業でも、そんなに怖い感じは一切ありませんでした。体育の先生がいですかね、ちょっと怖かったのは。

尾 室…当時の西本校長先生は、図書館長から東高の校長になられて、生徒に厳しさを教えることを学校教育目標に掲げていらつしやいました。何か学校行事で思い出はありますか。例えば、修学旅行、高原教育などはどうですか。

早 田…そうですね。修学旅行は、我々の学年は、何か「トップクラス」だけは行っちゃいかんという感じでした。僕らの学年はちよつと特別扱いで、結構「勉強！勉強！」と言われた思い出があります。

尾 室…西土井先生はどうですか。

西土井…はい。早田先生がおっしゃったように、修学旅行というのは確かにあったのですが、自由参加だったためからか、私は行きませんでした。

尾 室…先生方の時代にはマラソン大会も実施されており、遠足で長い距離を歩かせるということがこの時代から始まったと聞いています。話題が変わりますが、当時は受験戦争がどんどん厳しくなっていた時代ですが、そのあたりの思い出はどうですか。

(左) 西土井英昭さん (山20) (右) 早田俊司さん (山23)



『プライドをかけて』

早 田…先生方から「周りの進学校に負けるな」と叱咤激励されて、結構勉強していたと思います。東大レベルの生徒が学年に四、五人はいました。

滝波…私たちの時代は、文系理系を問わず、理科は、物理、化学、生物、地学の4科目、社会は、日本史、世界

史、地理、倫理社会、政治経済の5科目すべてをやった時代でした。

早 田…そうですね、そうです。全部やっていました。

尾 室…西土井先生はどうですか。何か勉強の厳しさの思い出はありますか。

西土井…勉強は高校のときはたくさん

(左) 滝波和宏 事務局長 (山24)

(右) 尾室真郷 校長 (山29)



しました。振り返ってみて、あの3年間は一番勉強した時期だったと思います。尾室…今でも生徒たちは苦しんでいますが、先生方が生徒だったとき、勉強、受験を乗り越える「コツとか術」とかはいかがでしょう。西土井…そうですね。余分なことは、

とにかく一切考えませんでした。とにかく勉強だけしてました。早田…僕らのときも受験は激しかったです。ただ、自分にはものすごくプライドがありました。尾室…プライドですか。早田…はい。そのように動機づけされたのかもしれませんが、私は附属中

出身なのですが、他の進学校に行った連中には負けられないぐらいのレベルだぞというプライドが自分にはあって、結構それがモチベーションになっていました。西土井…私は現在の修立小学校の位置にあった東中学校から東高へと進学しましたから、受験のときも100人以上がぞろぞろと隊列組んで東高の受験場に行ったことを覚えています。隣の学校へ行くというような感覚で、仲間も多くいましたし、何か非常にスムーズに高校生活に入れて、非常に楽しかったです。

『社会で伸びる東高生』

尾室…ここで少々話題を変えたいと思います。先生方が東高に在学中の経験も含めて、母校の生徒に関してどんな印象をお持ちですか。西土井…そうですね、東高の生徒は社会に出てから伸びる感じがします。社会に出てから、何か人間力があるというか育つ感じがします。

早田…私も西土井先生のご意見に同感です。東高の生徒は最終的には社会に出てから伸びるという感じは確かにします。滝波…以前から折に触れて世間で批判を受けていたのですが、高校進学に際して成績で輪切りをして進学先の高校を決める進学指導がなされているということがありました。我々の時代は、例えば、泳ぎが苦手な生徒はプールがない高校に行こうとか、東高は文化祭が楽しそうだから行こうという感覚で決めていたように思います。進学はもろろんのことですが、何かそれ以

外の要素も高校進学へのモチベーションになっていたと思うのですが、そういう点に関してはどうですか。西土井…正直言いますと、私も中学校の進路指導で、東高とは別の進学校に行つてはどうかと言われたことがありました。ただ私は、家が近いので、何で目の前にある高校に行かずに遠いところに通わなければいけないのだと思いました。そういう選択でした。

早田…今の滝波さんのお話を聞いてふと思ったのですが、ちょうど成績だけで志望校を決めるというようなお話でしたが、実は一番そこで困っているのは医学部だと思います。「成績が良ければ医学部へ行く」というのが徹底してしまいましたが、西土井先生も多分同じ感覚を持っておられると思いますが、特に医学部はそうなのですが、成績で輪切りにするという思考が少し蔓延していて、そこに悪い点がたくさんあるのではないかと思っています。

尾室…せっかくですので、将来医学の道を志す生徒のために、それを目指す者としてどうあるべきかということをお話していただけますでしょうか。基本的には学力と知識は必要だと思いますが、他の点はどうでしょうか。西土井…はい。まず、真面目さが必要だと思います。真面目で素直なことが大事だと思います。まあ人生全てそうなのですが、医者というのは特にコミュニケーションをとらなければならぬ職業ですから、この「コミュニケーション力」があるというのは、とても大事な要素だと思います。

早田…私も西土井先生のご意見に同感です。医学部というのは「理系」に入っていますが、私は医学部というのは「理系」でも「文系」でもなく、「医系」と呼ぶべきだと思います。医学部の卒業生の90%は臨床医になり、研究医というのは1割前後です。臨床医にとって一番必要とされる資質は、患者さんと言葉を交わしたり、周りのスタッフと協調して働くための「話す力」です。これが欠けた医学部の学生あるいは若い医師が今多くなっていると思います。確かに数学と理科ができないと入試は通らないのですが、本当に大切なのは「文系の能力も兼ね備えた理系の人間」、すなわち「医系の適性を備えた人間」だと思います。尾室…それでは両先生に医師という立場で教育現場に望むことを話していただきたいと思います。現在色々な教育現場でいかにして生徒に「人間力」「コミュニケーション能力」をつけるかが問われています。これは社会全般からも求められています。これが今の生徒に不足していると言われているのですが、高校時代にどういうことを学べばいいと思われませんか。

『選択肢を自分でつくる力』

早田…今のお話に直接結びつくかどうか分かりませんが、今の医学生や若い医者を見ると、物事を与えられた選択肢の中から選択して考えるくせがついていると思います。つまり、まず選択肢があつてその中で比較して何かを選ぶ、これは多分センター試験の思考法だと思うのですが、そういう思考法が多く見られます。しかし大切なものは、その選択肢をつくる能力の方だと思います。選択肢以前にあるものを

自分で考える必要があると思います。

尾 室…「自主性」というのは言われたことがきつちりと自分でできるということなのですが、今問われているのは、早田先生が言われたこととも関連しますが、自分自身で道を切り開いていくという「主体性」だと言われていると思います。この点に関してはどうお考えでしょうか。

西土井…なかなか人間、不思議と自分の育った環境で物事を考えることが多いのですが、やはりそういう面からすると、いろんな職業の人たちを観察するということも大切だと思います。医者になってみますと、色々な患者さんに出会うことになります。医者というのはオートメーション化できない職業です。散髪屋さんと同じなのです。出会う人が全部違った人で、注文も違うのです。ですから、オートメーション化できないし、一人一人の個性に合った対応をしなければなりません。時間がかかるし、難しいし、コミュニケーションがとれないとその患者さんの好みや要望が聞けないというようなことがあります。やはりいろんな職業の人たちを見てくることが大切です。自分たちの親を見ていいですし、友達

の親を見ていいと思います。

尾 室…幅広い出会いを大切にということですね。

西土井…そうですね。どんな職業、どういう人たちでもある程度ちゃんと観察して、その人たちに尊重するという気持ちを持つていけば、少しずつ人間力は育つと思います。

尾 室…いよいよこれから高齢化社会が進行していきますが、これから担

う世代として高校生がどのような課題意識、認識を持つていなければならないのでしょうか。

西土井…高齢化社会の問題はとても難しいと思います。でもこれは、確実に今も進行している問題です。しかし、これは誰でも皆経験することです。現在高校生であつても、これから確実に自分も年をとり、大人になり、親になるわけですから、そういうときに、それぞれの世代を尊重するというか、そういう気持ちがあれば、鳥取という小さな県や市ですが、小さいなりにお互い尊重できる社会になればいいなというふうに思います。

『鳥取の先進性』

尾 室…そういう意識を高く持てる人材を育成したいですね。早田先生はどうですか。

早 田…高齢化社会というのは、現実で見ると一番急速に進んでいくのは実は都会なのです。鳥取が非常に目立つように感じますが、実は一気に高齢化して高齢者医療で困るのは都会なのです。決して鳥取のような田舎だけに起こっていることではないということ、を、多分、外に出てみてやつとわかるような人が多いと思います。その深刻さというのは都市のほうがすごいということ、を、若い人たちに理解してほしいと思います。

尾 室…大都市、東京都心の方が、実は深刻な問題を抱えていることですね。

西土井…そうですね。実は医療の世界では、早田先生がおっしゃるように、みんなが大体そう思っています。現実にはそれは起こっています。ですから、逆に鳥取こそ、高齢化社会を身近に感じて上手に移行している先進県なのです。鳥取では、例えば10分、20分車で走れば胃カメラだとか、大腸のカメラの対応のできる病院に着きます。ところが、東京からちよつと離れた例えば茨城とか、そういうところでは対応できないですね。本間に、そういうカメラ1つでできる医者を探すのに、50キロも先に行かなければならないという状況もあります。ですから、都会のほうが優れていると思われがちですが、鳥取の方がはるかに都会よりも優れています。

早 田…普通の方々に還元する医療のレベルというのは、都会よりも鳥取の方が圧倒的に高いと思います。ですから、例えば東京都内にいて大学病院が2つ目の前に見えていても、全然そこで内視鏡1つすぐには対応できないという環境はたくさんあると思います。

尾 室…それではよく言われる医師不足とか看護師不足というのはあるにしても、鳥取県は恵まれているほうだということですか。

早 田…県全体として一律にそうだとはいえませんが、首都圏や都会が恵まれているかという点、全然違うということとは確かだと思います。

滝 波…鳥取県は一番人口が少なく、一番貧乏県だと時々卑下することがありますが、高齢化社会に向かつてはそんなに深刻で卑下する状況ではないという認識でいいということですね。

西土井…そうですね、少なくとも卑下する必要は全くないですね。これは、全国どこでも起こることですし、鳥取は早くからその準備が少しずつできてきていますので。

滝 波…例えば、東高の同窓の方で年配の方が鳥取に帰つても、医療が充実していないのではと思われる必要はないので、むしろ帰つてこられた方が適切な医療が受けられる可能性があるということができるわけですね。

西土井…ありますね。はい。

早 田…私の同期はもう定年で、ここ1年で帰つてきていますが、こちらに帰つてきて随分その点では楽だとはつきり言っています。

滝 波…失礼になるかもしれませんが、医師の方にぜひ聞いてみたいと思つていました。最初から完璧なお医者さんはいないと思いますが、やはり患者さんにお医者さんにしてもらったなあという感じは持たれますか。

西土井…それはもうたくさんあります。患者さんに教えてもらい、看護師さんに教えてもらい、ほかのスタッフに教えてもらうといった具合です。自分が医師として看護師さんとか放射線技師さん等に、一応指示はそのうち出すようにはなるんですが、やはり、その方の方が、「餅は餅屋」ですよ。レントゲン一つとつてみても、技師さんに、「これどうですか」と若い時は聞いて、「ここ変ですね」というような格好で教えてもらつたりすることはよくありますし、患者さんも、まあ反面教師のときもありますし、ちゃんと教えてくれる場合もあります。何十年経つて

も、患者さんから教えられることは今でもありますね。

滝 波…早田先生はいかがですか。

早 田…いや、もうそれは絶対そうです。だから、西土井先生が言われた中で、結局、例えばレントゲンにしても、それから薬の使い方にしても、自分がわからなかったら聞ける医者が一番いい医者だと思っています。薬剤師さんに、「この薬、この使い方、本当にいいですか」とか。

西土井…そうですね。

早 田…特に若いうちにそれができる人間が、良い医者として育っていくと思いますし、ましてや、患者さんから学ぶというのは、これはもう西土井先生であつても、今もそうだと思います。僕でも今そうだと思います。それはもう当然です。

尾 室…せっかくですから、高校生に「命の尊さ」ということを伝えたいと思います。この点は教育のそして我々教員の願いなのですが、何かこの点にしてお言葉がいただけたら幸いです。

西土井…命はそれぞれ一人に1つずつあるわけですし、どんなに小さい虫から大きなゾウまでそれは同じです。これを与えられたものはやはり全うすべきだと思います。どんなに苦しいときがあつても、10年、20年間ずつと苦しいなんてことは絶対ないんですね。やはり必ず、苦しいときの次にはいいことは必ずありますからね。

尾 室…夜も明けるし、雨も上がるということですね。

西土井…そうですね。やはり、絶対命を無駄にしてはならないですね。我々の終末期の医療とか、がんの末期の患者

さんとか、そういう患者さんもなくさん診ますけれど、やはり体が生きようとしている場合は必ずサポートします。心臓がとまるのは、患者さん自身の体が自分で決めますからね。ですから、絶対それを自分の手で縮めるようなことはやってはならないし、ましてや、医者が何かをするなんてことは絶対できないです。本当に与えられた命はもう最期の最期、老衰まで持つていくのが医師の責任ですね。

早 田…私は医学を目指すに当たって、どうせ亡くなる命を少し助けていくだけに過ぎないという根源的な問題を自分の中で消化するのに時間がかかりました。それでも、1日でもあるいは1年でも大切な命を延ばすことが大事なのだと思うに至りました。命の問題は青春期だけに思いつくことではなくて、生まれた以上ずっと抱えていく問題なので、やはり生きること自体に意味があるのだという思いに至ってほしいと思います。

『輝け東高生!』

尾 室…生きること自体に意味がある。いい言葉ですね。ありがとうございます。それでは最後の話題に移りたいと思います。いよいよ鳥取東高等学校が4年後に100周年を迎えます。母校の建学の精神というものを大事にしなから、この歴史の中に流れているものをしっかりと受け継ぎながら発展していかないといけないと思っています。どんなことでも構いませんので、これからの東高に望まれることをお話いただければと思います。

うのは、一生の中でたった3年間ですが、一生の中で一番輝く3年間だと思います。東高に入られた人は、とにかくまず一生懸命勉強してほしいですね。多分人生の中で一番勉強だけに集中できる期間だと思います。ですから、とにかく一生懸命勉強してほしいですね。あとは部活とか、友達同志とのつき合いの中で、コミュニケーション力をつけ、友達同志で高め合うということをしてほしいと思いますね。

早 田…私は物心ついたときから、父親に連れられて東高に何回も来ていましたので、愛着というかわりはずごくあります。1つは自由なところがあつて、こういう言い方がいいのかどうか知りませんが、官僚的なところのほとんどない。例えば、私のその同期のクラスでも、1クラスで大学の教授になったのが5人か6人います。この東高にはそういう形の人間形成があるんじゃないかなと思います。あと、人に対する愛着という仲間を大切にすることが、西土井先生が先程おっしゃったチーム医療で人間同志が組んでやっていく場合、やはり愛情とか、思いやりがないとだめだと思うので、そこを育むような状況が受け継いでいってほしいと思います。

滝 波…今お二人のお話を伺っていると、「勉強してほしい」という言葉に全く「嫌み」を感じませんでした。高校での勉強というのは自分が将来幸せになるためにやるもので、何か自分がやりたいことをやるための手段であるという風に聞こえました。

尾 室…それではここで何か言い残したこととか、これだけは伝えたいという

ようなことを最後に話していただけると有り難いと思います。よろしくお願いします。

早 田…これはさっきの話とは矛盾することになるかも知れませんが、東高から医学部に入る生徒が少ないのではないかと思います。最初に西土井先生が言われたように、東高の生徒というのは社会人になって伸びる人が多いと思います。医学部に入って卒業し、それからさらに社会人として医師として伸びる力があると思いますので、頑張っていたきたいと思います。

尾 室…東高だからこそ、医学の道を目指せと。

西土井…東高を卒業して良かったと私も思っています。これだけいい環境の高校はそんなないと思います。街の中にあつて、桜並木、イチヨウ並木があり、本当に四季を通じて美しい、そんな環境で勉強できることはすばらしいと、在校生のときは余り思わないかもしれないですが、巣立った後はやはり思います。本当にこういう環境で勉強できる若い一時期を大切に、とにかく一生懸命勉強していろんなことに立ち向かっていってほしいと思います。早田先生が言われたように、東高の卒業生は色々なところで活躍していますので、大丈夫だと思います。

尾 室…きょうの対談が、必ずこれからの東高生の進路選択や生きる道につながっていくと思っております。今日は本当にありがとうございました。



我ら同期生

三十五周年同窓会

中江 一雄 (山33)

三次会を終えた時、急にこみ上げてくる想いがありました。「あつ、今日あの人と話をしていない。あの人も言葉交わしていない。」五年ごと開催することにした学年全体の同窓会も、四回目となりました。毎回参加してくれていた友の中には、この五年の間に亡くなってしまった人もあります。集えたからには、もつともと貪欲に言葉を交わしたいとあらためて感じました。

一次会の受付を始めた夕刻からの「久しぶり」の嬉しそうな声に、今回も開催にこぎつけることのできた喜びを感じました。高校卒業以来じっくり話をすることのなかった人とのなつかしいひと時や、何年振りかで集い、幾人かで一緒に写真を撮り合う喜びの格別だったことは言うまでもありません。四十周年って、還暦直前だよな」と、しみじみしつつ再会を誓い合いました。二〇一七年八月十二日(土)、ホテルニューオータニ鳥取「鳳凰の間」からの集いでした。

二十年ぶりの「キラキラ」

影井 良次 (山48)

二十年もすれば、高校生当時の面影を残しつつも、四十歳手前の貴族というか、多少の人の年輪を感じます。それでも久々の出会いに歓声が聞こえ、懐かしい話が繰り広げられ、二〇一七年八月三日は素敵な一日となりました。

先輩から「毎年恒例の卒業二十周年同窓会の話を聞いた昨年二月、まさか大阪に住む私が幹事長をするなんて思わず、元々の性分で運営に携わることとなりました。当時と全く違う社会状況の中でみんな生活していますから、幹事も全国各地でLINEやGOOGLEアプリを使いながら準備を進め、前日準備の時には、幹事団も最強のチームになっていました。受付で出会った時からあの頃の



表情に戻り、ご参加いただいた十名の先生方の元にも「元生徒」が群がり、思い出の写真に当時のキラキラした思い出を蘇らせました。全てが二十年ぶり、毎日お昼に聞いていた「EBC Jockey」も、学

主任西尾先生のお話も、先生からのメッセージも、当時の思い出が映像もクイズも、懐かしい音楽と話題にと一六一名が大いに盛り上がった昼下がりでした。二次会にも当初の想定を大きく超える一五五名の方に参加いただき、その後も宴が鳥取のあちこちで夜中まで名残惜しさなくなるまで続いたのではないのでしょうか。

その後も、関東では同窓生が東京で集い、竹蔵先生の教え子さんが研

世代を超えた同窓会

井上 法雄 (山31)

昨年桜咲く四月に開催し、十月のお月見の会をへて、二年目を迎えました。今年は、例年より桜が早く桜舞い散る同窓会となりましたが

四十名以上の方のご参加をいただきました。以前参加された方々より年代をこえ、肩書職業も関係なく(もちろん学歴も)鳥取東高等学校卒業という一つの接点で全く普段つなりのない人たちが、集い楽しく語り合うそんな機会ってヒトとヒトとのつながりが薄れた今の時代に大変楽しい時間を過ごせたと喜んでいただいております(特にご年配の方々より)。一つのつながりが新しいつながりを生む。二中卒業生の中村先生より「わしらーの年代は同窓会しても数名しかこんげえ一緒にさせて」とまさに多くの方が「つながる」。ICT時代になりその活用手法により、より多くの可能性が広がりました。さてこのつながりをどう活かすか、鳥取の未来も描けるかも(笑)



いつかは「伝統」へ！ 一鳥取東高PTA合唱—

稲村 潤一（山33）

今年度もPTA合唱団総勢約60名が、9月6日、とりぎん文化会館で開催された第68回東高祭において、尾崎直美先生の指揮の下、ATSUSHIの「桜の季節」を熱唱いたしました。

尾室校長先生を含め多くの先生方、東高（合唱？）を愛してやまない保護者、OB・OGに多数ご参加いただき、東高祭合唱コンクールのトリを飾らせていただきました。

平成20年度に結成されたPTA合唱団も今年度10年目を迎え、年々実力が上がってきたように思います。

「継続は力なり」の言葉通り、最初に合唱に取り組まれた先輩PTAの熱意が受け継がれ、今のPTA合唱団に繋がっています。PTA合唱が「東高伝統」のと言われるよう、これからも保護者や先生方、OB・OG一体となって頑張っていきたいと思います。



	H26	H27	H28	H29	H30
国公立大	157	165	199	132	144
私立大	343	407	349	251	319
短大	31	39	20	31	25
専修学校等	72	65	83	63	85
計	603	676	651	477	573

主な大学の合格者数

筑波大学	1	岡山大学	5	同志社大学	3
千葉大学	1	広島大学	7	立命館大学	8
埼玉大学	2	香川大学	3	龍谷大学	12
東京学芸大学	1	愛媛大学	3	京都産業大学	10
京都大学	1	山口大学	5	京都女子大学	6
奈良女子大学	1	九州工業大学	1	関西大学	9
鳥取大学	53	公立鳥取環境大学	7	関西学院大学	3
島根大学	12	島根県立大学	2	近畿大学	32

平成二十九年度は、センター試験から二次試験までの期間が一番長いスケジュールでした。この間、現役生・過卒生ともに地道に学習を重ねて二次試験にチャレンジし、国公立大学合格者数は一四四名とよく健闘しました。鳥取大学に関しては前年度に比べ十三名増と健闘しました。しかし、他の国公立大学については岡山大学・広島大学で五名減、旧帝国大学を中心とした難関大学では京都大学に合格した浪人生一名という結果でした。また、私立大学については関関同立で十一名減でしたが、近畿大学や神戸学院大学では合格者を増加させることが

できました。本年度は、推薦入試で国公立大学に二十名の合格者を出すことができませんでした。今後は推薦・AOの合格者を三十%にする方針を大学が打ち出していることもあり、生徒たちの進路実現に向けてさらに研究を重ねていきたいと考えております。看護系の専門学校や公務員（警察・消防・県職・市職・国家公務員）については、受験した多くの生徒が合格していきました。なお、過去五年間の合格者（現役・過卒の合計）の状況及び主な大学の合格者数は左の表の通りです。

平成三十年度

進路状況

【全国大会】

部 名	男女	大 会 名	種目・成績等
柔 道	男女	全国高等学校総合体育大会 (福島県開催)	男子団体・出場 男子90kg級・出場 女子78kg級・出場
	男子	全国高等学校柔道選手権大会 (東京都開催)	男子団体・出場 男子無差別級・出場
卓 球	女子	全国高等学校総合体育大会 (福島県開催)	個人シングルス・出場
ボ ー ト	男子	全国高等学校総合体育大会 (宮城県開催)	舵手付クオドルブル・出場、シングルスカル・出場
	男子	国民体育大会	少年男子ダブルスカル・準優勝
水 泳	男子	全国高等学校選抜ボート大会 (静岡県開催)	男子ダブルスカル・出場 女子舵手付クオドルブル・出場
	男子	国民体育大会	400mメドレーリレー・出場 100m背泳ぎ・出場 100m自由形・出場 200m・平泳ぎ・出場
放 送	男子	NHK杯全国放送コンテスト (東京都開催)	テレビドキュメント部門、ラジオドキュメント部門、ラジオドラマ部門、個人朗読部門・出場
	男子	全国高等学校総合文化祭	個人朗読部門・優秀賞(ベスト8以上)
書 道	男子	全国高校大作書道展	個人・大作優秀賞(255点中14点に出場)
	男子	書道パフォーマンス甲子園	出場

【県高校総体】(インターハイ出場をのぞく)

部 名	男女	種目・成績等	備 考
陸 上 競 技	男女	入賞10種目(女子円盤投げ、砲丸投げ・優勝)	中国大会出場
高校総体駅伝	男女	男子第4位・女子第4位	中国大会出場
バスケットボール	女子	準優勝	
テ ニ ス	男子	団体・第3位	
	男子	男子ダブルス・準優勝	中国大会出場
サ ッ カ ー	女子	優勝	中国大会出場
柔 道	女子	第3位	
水 泳	男子	男子団体総合優勝	中国大会出場
	女子	女子団体総合準優勝	中国大会出場
	女子	個人優勝6種目	中国大会出場
	男女	入賞上記以外50種目	中国大会出場

【県高校総文祭】

部 名	男女	種目・成績等	備 考
邦 楽		団体優良賞(第2位)	近畿高総文祭出場
演 劇			優秀賞
放 送		団体・個人・優秀賞 個人・奨励賞	全国高総文祭出場・近畿高総文祭出場
将棋同好会		第8位	近畿高総文祭出場

【各種大会】

部 名	男女	大 会 名	種目・成績等	備 考
バスケットボール	男子	ウィンターカップ鳥取県予選会	第3位	
	女子	中国高校選手権鳥取県予選会	準優勝	中国大会出場
ソフトテニス	男子	全国選抜大会鳥取県予選会	団体・3位	中国大会出場
陸 上 競 技	男女	鳥取県高校新人戦	男子5000m 1位・18種目入賞	中国大会出場
	男子	中国高校選手権鳥取県予選会	ダブルス優勝・シングルス準優勝	中国大会出場
テ ニ ス	男子	鳥取県高校新人戦	団体男子準優勝・女子3位	中国大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	優勝	
サ ッ カ ー	女子	中国高等学校選手権大会	団体出場	
卓 球	女子	鳥取県高校新人戦	個人シングルス・準優勝	
書 道	団体	高等学校書道パフォーマンスグランプリ中四国大会決勝大会	出場	
	団体	県高校書道展	個人5名・奨励賞	

部活動報告

生徒会 田中 智基(山50)

鳥取東高校は『学習・部活動・学校行事の3点を全力で追いかける』のもと、多くの生徒・職員がともに日々精進しています。昨年度も多くの部が活躍しました。

文化部では、放送部が今年度もNHK杯全国高校放送コンテストに4部門での出場を果たしました。久しぶりに全国大会出場を果たした書道部は、武者小路実篤の画讀『龍となれ雲自ずと来る』をテーマに、仲間の助けを貰いながら成長していく大切さを堂々と表現しました。

今年もまた昨年に引き続き、全国大会で入賞を果たす活躍が見られました。ボート部3年生小山峻君が鳥取県代表と



国体 本田航平

して愛媛国体に出場し、準優勝を果たしました。また、水泳部1年生本田航平君が愛媛国体1000m平泳ぎで4位、200m個人メドレーで5位入賞を果たしました。

『TEAM鳥取東』一丸となって臨んだ県総体では、2年連続インターハイ出場となった柔道部に加え、ボート部卓球部、水泳部が全国大会に駒を進めました。惜しくもインターハイ出場を逃した女子バスケット、テニス部の男子ダブルスは準優勝。県総体は1位通過したものの中国地区で惜敗した女子サッカー部など、多くの部が仲間とともに涙を流し、これまでの努力を称えあいました。

県総体後に行われた全国選抜鳥取県予選会では、柔道部が15年ぶりに男子団体で出場を果たしました。近年力をつけてきたソフトテニス部は、県選抜予選で第3位。男子バスケットも第3位

に終わりました。

県新人では、陸上競技部が男子5000mで優勝、女子サッカーも優勝し、テニス部が男子団体、男子ダブルスで準優勝を果たし、中国大会へと駒を進めました。

その他にも県総体・県新人大会等での上位入賞や中国大会へ数多くの部が出場し、学校全体に活力を与えてくれました。また、学校内外においても多くの生徒が挨拶・服装・礼儀などを大切にする姿があり、学校全体に締まりある雰囲気を作ってくれています。

各部活動が切磋琢磨することがお互いに刺激となり、ともに高め合う。大会結果を讀み合い、そのプロセスの中で生徒・教員が繋がっていく。そして学校がひとつのチームとなり、『TEAM鳥取東』として今後も全生徒職員がひとつになつて前進していくことを切に願っています。



書道パフォーマンス甲子園

近年、県外大会で同窓会の皆様の声援を受けることが多くなりました。全国大会の日程・会場等を、本ホームページにて随時お知らせしております。今後とも大会にぜひ足を運んでいただき、先輩たちを生の声で応援していただければ幸いです。



柔道部

編集後記

永島 有樹(山43)

今年も東高前の桜が咲き誇る季節となり、新1年生を迎えるの新学期が始まりました。この桜は植えられ始めてから、今年で80年以上の年月が経つとのことである。

学校とは不思議なところで、生徒や職員は毎年入れ替わっていくにもかかわらず校風や生徒の気風は脈々と受け継がれていく。現在の生徒もいろいろな壁にぶつかりながらも『克己・親和・進取』を体現するように勉強と部活動に精一杯取り組んでいる。

袋川沿いの桜は昭和27年の鳥取大火ですべて焼けてしまったが、それを惜しんだある方が10年以上にわたって苗木を寄贈し、市民の保護育成によって見事蘇らせたものである。この地に誕生した鳥取東高校は今年で96年目を迎える。今年度も生徒たちは満開の桜のごとく青春のエネルギーを日々発してくるだろう。この生徒たちの活動をさまざまな場面で支え、東高を育て続けてくださる方々にこころで改めて感謝をしたい。